

後援会ニュース「しおかぜ」は街づくりのコミュニティ紙として皆さんの暖かいご支援をお願いします。ご意見をお聞かせください。



しおかぜ

日本共産党浦安市東部後援会
News

第81号

2021年 7月15日
編集責任者 元木計文
047-355-8526
部内資料

新型コロナワクチンの安全・迅速な接種を！



《 浦安市に保健所の設置を 》

■■ とれた？受けた？が挨拶代わり ■■

新型コロナワクチンの予約・接種を巡って混乱が続いています。なぜ高齢者には難しいインターネット申し込みや、早い者勝ちのような電話申し込みをさせるのか？特に、一回目の申し込みについては数も少なく、申し込みが殺到しました。こんな不満や焦りの声がたくさん聞かれました。

◆◆◆ ここ数日、ワクチン接種の申し込みを巡って、文字通り「てんやわんや」。自治体から75歳以上の高齢者対象のクーポン券が届けられたのが6月7日。早速申し込みしようとしたが、私は電話もできない高度難聴者。あいにくパソコンも所有していない。仕方なく妻に電話してもらった。だが、なかなか繋がらない。ずっと電話をし続けてもらった。本当に大変だった。この時くらい、耳の聞こえないことのハンディを痛切に味わったことはなかった。肝心の時に障がい者にほとんど配慮がないのが実に情けない。◆◆◆

さて、ワクチン接種も始まっていますが、6月24日には、16～64歳の方へ接種券が発送されました。

浦安市（7月6日現在/浦安市公式サイト）では65歳以上の高齢者の2回目の接種率は42.6%（接種者13,587人）。千葉県全体（7月12日現在/ NHK公式サイト）では、2回目の接種率は45.24%です。



日本全国では、2回のワクチン接種を終えた高齢者は、48.52%（7月12日現在/ NHK公式サイト）に過ぎません。菅政権が掲げた「7月中旬に」は到底無理な状況です。

しかも、ワクチンさえ接種すれば済むという話でもありません。感染拡大の第4波は、東京、大阪だけでなく全国に広がり、重症者も増え続けています。変異株の広がり、医療危機で入院も治療も受けられない患者の急増、長引く暮らしの危機など深刻な状態になっています。適切な対処もせず、国民に自粛ばかりを押しつける政府の姿勢にはうんざりです。

■■ 五輪は中止しコロナ対策に全力を ■■

日本共産党は、無為無策の政府に「コロナ封じ込め」でやるべきことを次のように提案しています。

- ① ワクチンの安全・迅速な接種
- ② 大規模なPCR検査 人口比のPCR検査数は世界141位です。（6月23日現在）
- ③ 補償と生活支援

来日したわずかな選手団の中から既にコロナ感染者が出ています。コロナによる不公平な条件のもとで行うのか。オリンピック関係者への手厚い医療で、国民の生命・健康がないがしろにされる状況も心配されます。オリンピックパラリンピックは中止すべきです。

■■ 浦安市に保健所を ■■

浦安市には保健所がなく、「市川保健所」が市川・浦安の2市を所管し、過大な業務を抱える中で、新型コロナ感染の対応に追われています。

感染拡大が続く、いつ終息するのか分からない状況下で、浦安市にも保健所の設置を求める市民の声（2面に掲載）が広がっています。日本共産党浦安市委員会では、市民のみなさんの声を受け、7月21日、千葉県知事に申し入れを行い「浦安市に千葉県立保健所の設置を求める」要望書を提出します。



いのちと暮らしを守る市政を！

8. 22(日)

【開場 午後2時、開会 午後2時30分】
〈中央公民館 (2F) 視聴覚室〉 (参加無料)

■ 講師

日本共産党中央委員 さいとう和子
日本共産党准中央委員 浅野ふみ子
浦安市議会議員 美勢 麻里

■ 主催 「浦安のまちづくりを考える会」

【連絡先 松木 354-9212 元木 355-8526】

ワクチン狂躁曲

村上 ますえ

1

おばあは時間きっかり ボタンをプッシュ
プープープー

繰り返し またボタンを
コロナワクチン接種権獲得の
火ぶたが切られたというのに

まわりがすれば

おれはどうでも

取り合えないおじいを前に

孤軍奮闘

「予約申し込み完了」

だとさ 放送してるよ

おじいの言葉ががっくり

2

孫子も総動員 第2次の予約獲得戦

数十分後

「おばあ分ゲット」の孫のメール

おじいはい？

おれはいいさ ゆっくり

プレミアム付きでどうぞといってくるから

3

おばあは単独 接種権行使

それをしり目におじいはずつづつうたう

コロナ コロナでイチコロナ

ワクチン ワクチンでゴリンジュウ

縁起でもない！

おばあは怒りに

五輪（ゴリン）終（ジュウ）五輪が終わるというんだぞ
無事だとは限らないが



私の故郷自慢

No.13

<< 私の故郷 山形市の思い出 >>

伊那三郎

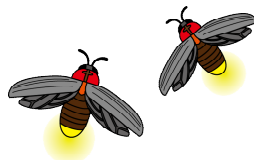


私が幼少期から高校生までのほとんどの期間を過ごしたのは、山形市です。山と川に囲まれたこぢんまりとした都市で、市の端から端まで

自転車でそれほど時間をかけずに横断できます。

市営住宅から父が初めて家建てたのは畑を分譲し始めた所で、回りには、麦畑や桑畑が広がっていました。桑畑は、お蚕さん用の葉を取るため、桑の実で口を紫色にしながら遊んでいたことを思い出します。ヒバリは、麦畑の中の巣から 200 メートルは離れた場所に降りてきて、歩いて巣に向かいますので、ヒバリが降りた場所から 200 メートルの円を描いて、そこで巣を探したりしていました。

夏の夜には蚊帳の外に蚊がやってきますが、蛍も訪れてくれました。今では、この実家の回りもすっかり宅地化していますが、1-2 キロほど山の方に向かって歩くと畑や田んぼに出会うことが出来ます。今でも、自然に触れ合える機会が多いのも山形の魅力だと思います。



山形で皆さんが想像されることの1つは、「芋煮会」だと思います。町内総出で歩いて 15 分以上はかかる大きな河原に出かけ、みんなで芋煮を作って食べます。子どもにとっては、楽しい企画でした。

「ふるさと自慢」ということでしたら、純朴な人柄でしょうか。助け合いの精神は多くの人に共有されていて、東京から、

保健所について

美浜 佐藤

新型コロナウイルスの大流行で、「保健所」の役割が再認識されています。2009 年の新型インフルエンザの大流行の反省として、専門家による「対策総括会議」で、保健所の強化がうたわれました。しかし、政府は保健所を減らし続け、今回の事態を招いています。

保健所は、予防も含めた感染症対策で中心的な働きをしていますが、それ以外でも重要な働きをしていますので、ここではそれに関する経験を記します。

自治会でお祭り等を行うときは、食事を提供すると係の人は検便の結果を持って、保健所の許可をもらう仕組みになっています。狂犬病の予防注射済票の発行も身近なところだと思います。意外なところでは、民泊の営業許可にも保健所が関与しています。私は、国指定の難病（パーキンソン病も含まれていますので、関係する人は意外と多い）関係でお世話になりました。

関係書類の申請業務に加え、患者家族の交流会や専門家による講演会を企画してもらい、大変役に立ちました。患者家族の会を立ち上げようとした時も、個人情報教えてもらえませんでした。こちらで作成した案内を郵送する手伝いをしてもらいました。ただ残念だったのは、会場等が市川に偏りがちだったことでした。

上記以外にも精神障害者のケアを初め多くの仕事がありますが、新型コロナウイルスによるパンデミックで、感染症対策以外の業務にシワ寄せが来ているのではないかと危惧しています。

保健所を充実し、浦安市にも保健所が出来ることを切に願っています。

山形へ帰る夜行列車では、子どもを抱えたご婦人や高齢者へ席の譲り合いが自然に行われ、私も通路に雑魚寝をしていたことを思い出します。このような精神が今でも失われていないと良いのですが。